

## 2.6 Involutions

包除原理の特別な形

$$f_=(\emptyset) = \sum_Y (-1)^{\#Y} f_{\geq}(Y).$$

を考える．これを

$$f_=(\emptyset) + \sum_{\#Y \text{ odd}} f_{\geq}(Y) = \sum_{\#Y \text{ even}} f_{\geq}(Y).$$

と書き換える．これを組合せ的解释を用いて示してみる．

集合  $A$  の元が，性質 ( $S$  の元) を持ったり持たなかったりする状況を考える．

$M = \{x \in A : x \text{ は } S \text{ のどの性質も持たない}\},$

$N = \{(x, Y, Z) : x \in A \text{ が持つ性質が } Z \supseteq Y \text{ に一致し, } \#Y \text{ は奇数}\},$

$N' = \{(x', Y', Z') : x' \in A \text{ が持つ性質が } Z' \supseteq Y' \text{ に一致し, } \#Y' \text{ は偶数}\},$

とする． $S$  に全順序を入れ， $\sigma : M \cup N \rightarrow N'$  を次のように定める．

$$\begin{aligned} \sigma(x) &= (x, \emptyset, \emptyset) \quad \text{if } x \in M, \\ \sigma(x, Y, Z) &= \begin{cases} (x, Y - i, Z) & \text{if } \min Y = \min Z = i, \\ (X, Y \cup i, Z) & \text{if } \min Z = i < \min Y. \end{cases} \end{aligned}$$

$\sigma$  は全単射であり，

$$\sigma^{-1}(x, Y, Z) = \begin{cases} x \in M & \text{if } Y = Z = \emptyset, \\ (X, Y - i, Z) & \text{if } Z \neq \emptyset \text{ and } \min Y = \min Z = i, \\ (X, Y \cup i, Z) & \text{if } Z \neq \emptyset \text{ and } \min Z = i < \min Y, \end{cases}$$

ただし  $\min \emptyset = \infty$  とする．

$x \in M$  を  $(x, \emptyset, \emptyset) \in N'$  と同一視すれば， $\tau := \sigma \cup \sigma^{-1} : N \cup N' \rightarrow N \cup N'$  は以下を満たす．

- (a)  $\tau$  は involution ( $\tau^2 = \text{id}$ ).
- (b)  $\tau$  の不動点は  $(x, \emptyset, \emptyset)$  ( $x \in M$ ).
- (c)  $(x, Y, Z)$  が  $\tau$  の不動点でないとき,  $\tau(x, Y, Z) = (x, Y', Z')$  とおくと

$$(-1)^{\#Y} + (-1)^{\#Y'} = 0.$$

これらを踏まえて, 包除原理の式

$$\begin{aligned} f_=(\emptyset) &= \sum_Y (-1)^{\#Y} f_{\geq}(Y) \\ &= \sum_Y (-1)^{\#Y} \#\{x : Z := \{x \text{ が持つ性質}\} \supseteq Y\}, \end{aligned}$$

の右辺を見ると,  $\tau$  で移りあう元  $(x, Y, Z)$  同士が係数  $(-1)^{\#Y}$  によって打ち消され, 不動点  $(x, \emptyset, \emptyset)$  ( $\{x \text{ が持つ性質}\} = \emptyset$ ) のみが残っている.

一般化する. 有限集合  $X$  が 2 つの集合の disjoint union  $X^+ \dot{\cup} X^-$  で表されるとき,  $X$  の involution  $\tau$  が次の条件を満たすとする.

- (a)  $\tau(x) = y$ ,  $x \neq y$  ならば,  $x, y$  のちょうど片方のみが  $X^+$  に属する.
- (b)  $\tau(x) = x$  ならば  $x \in X^+$ .

$X$  の元を重み関数

$$w(x) = \begin{cases} 1 & \text{if } x \in X^+, \\ -1 & \text{if } x \in X^-, \end{cases}$$

で重みづけするとき,

$$\# \text{Fix}(\tau) = \sum_{x \in X} w(x),$$

が成り立つ. ただし  $\text{Fix}(\tau)$  は  $\tau$  の不動点の集合.

ここで, さらに別の有限集合の disjoint union  $\tilde{X} = \tilde{X}^+ \dot{\cup} \tilde{X}^-$  を考え,  $\tilde{X}$  の involution  $\tilde{\tau}$  が (a), (b) を満たしているとする. さらに, 全単射  $f : X \rightarrow \tilde{X}$  が符号を保つ, すなわち  $f(X^+) = \tilde{X}^+$ ,  $f(X^-) = \tilde{X}^-$  と仮定する. このとき

$$\# \text{Fix}(\tau) = \#X^+ - \#X^- = \#\tilde{X}^+ - \#\tilde{X}^- = \# \text{Fix}(\tilde{\tau}).$$

このとき,  $\text{Fix}(\tau)$  から  $\text{Fix}(\tilde{\tau})$  への自然な全単射  $g$  を構成することができる.  
これを **involution principle** という.

$x \in \text{Fix}(\tau)$  とする. このとき,

$$f(\tau f^{-1} \tilde{\tau} f)^n(x) \in \text{Fix}(\tilde{\tau}),$$

を満たす非負整数  $n$  が存在する. そのような  $n$  について,

$$g(x) = f(\tau f^{-1} \tilde{\tau} f)^n(x),$$

と定める. この  $g : \text{Fix}(\tau) \rightarrow \text{Fix}(\tilde{\tau})$  は全単射である.

この involution principle について, “sieve-equivalence” という変種がある. 2つの disjoint な有限集合  $X, \tilde{X}$  と  $Y \subseteq X, \tilde{Y} \subseteq \tilde{X}$  について, 全単射  $f : X \rightarrow \tilde{X}, g : Y \rightarrow \tilde{Y}$  がとれたとする. このとき  $\#(X - Y) = \#(\tilde{X} - \tilde{Y})$ . ここで全単射  $h : (X - Y) \rightarrow (\tilde{X} - \tilde{Y})$  を構成する.

$x \in X - Y$  をとる. このとき,

$$f(g^{-1} f)^n(x) \in \tilde{X} - \tilde{Y}.$$

を満たす非負整数  $n$  が存在する. そのような  $n$  について,

$$h(x) = f(g^{-1} f)^n(x),$$

と定める. この  $h : (X - Y) \rightarrow (\tilde{X} - \tilde{Y})$  は全単射.

**例 2.6.1.** 1 を不動点とする順列  $w \in \mathfrak{S}_n$  全体の集合を  $Y$  とする. また, ちょうど 1 個のサイクルからなる順列  $w \in \mathfrak{S}_n$  全体の集合を  $\tilde{Y}$  とする. このとき  $\#(\mathfrak{S}_n - Y) = \#(\mathfrak{S}_n - \tilde{Y}) = n! - (n-1)!$ .

$\mathfrak{S}_n - Y$  と  $\mathfrak{S}_n - \tilde{Y}$  の間の全単射  $h$  を構成する明らかな方法はなさそうだが, 全単射  $g : Y \rightarrow \tilde{Y}$  を構成するのは簡単である.  $f : \mathfrak{S}_n \rightarrow \mathfrak{S}_n$  を恒等写像とすれば, 先ほどの方法で全単射  $h : (\mathfrak{S}_n - Y) \rightarrow (\mathfrak{S}_n - \tilde{Y})$  を構成できる.

ただし、この場合に関しては  $Y$  と  $\tilde{Y}$  が disjoint であることから、

$$h(w) = \begin{cases} w & \text{if } w \notin \tilde{Y}, \\ g^{-1}(w) & \text{if } w \in \tilde{Y}, \end{cases}$$

としてやれば済む。